

発行：弘前大学大学院地域社会研究科

<http://www.hirosaki-u.ac.jp/Tlag/index.html>

編集協力： NPO法人ひろだいりサーチ

印刷： やまと印刷株式会社

地域社会研究科発足 十周年の節目を迎えて

二〇〇二年に発足した弘前大学大学院地域社会研究科は、地域の皆様に支えられて新年度に十周年を迎えました。
三年間の後期博士課程学習と研究および博士論文の作成によって「学術博士」を得ることができる環境を整えています。

二〇一〇年度に、地域社会研究科が主催、後援した事業、ならびにお手伝いした津軽地域づくり研究会と地域社会研究会の事業の一部をご報告します。

今後とも地域の皆様とともに、地域づくりを進めたいと願っています。



点を線でつなぐコミュニティ

―下北調査

大学院地域社会研究科主催の二〇一〇年度下北調査は八月三十一日〜九月二日に実施しました。最も時間を使ったのは地域人材育成をテーマにしたワークシヨップでした。会場は「むつ市海と森のふれあい体験館」(NPO法人シエルフォレスト川内が指定管理)のロビー。九月一日午後から三時間余の議論でした。教員五名、院生四名、学部学生一名、むつ市職員四名、下北県民局職員一名、NPOメンバー一名の十六名が三つのグループに分かれての会議でした。

あるグループから出された意見は、下北半島は点を線でつなぐコミュニティの集まりだということでした。常識的な同心円を基礎とする地域的広がりではなく、道路で結ばれる生活上の基盤的施設のつながりによって、コミュニティが維持されています。小学校の学区、購買施設、診療所等は同心円的な地域的広がり前提にすると多くは存在しません。学校は統廃合され、個々の集落人口の減少の中で商店や診療所等が失われています。過疎社会の一つの生き方として、道路とバスでコミュニティが維持されています。

翌日、陸奥湾に近い川内の集落を見学しました。夏場は山で農業や酪農をやっているためか、人影を見つけないものでした。個々の住宅には洗濯物が干され、郵便配達員が動いています。下北調査は海と山を使う住民と集落の過疎調査でもありました。



地域おこし

―三戸ミーティング

「地域おこし―地域産業と後継者問題」をテーマとするミーティングは、二〇一〇年十一月六日に三戸町で初めて開催されました。大学院地域社会研究科の教員・院生と、三戸町とその隣の田子町の有志の方々が、それぞれ自己紹介をかねて課題を探索するフリートーキングをおこないました。人口減少とくに若い世代の流出と子供の減少、高齢世代と一人暮らし老人の増加、地場産業の低迷などは、当地にかぎらず全国各地が共通にかかっている問題ですが、参加者はそれぞれの立場と視点から、この地域の現状とその打開策などについて現在取り組んでいる活動も含めてさまざまな意見やアイデアを出し合いました。話し合うなかで互いに触発されることが多く出てきて盛り上がり、今後も継続することになりました。



地域社会研究科後援事業 —青函フォーラム

道南と青森県の循環型農業について考える青函フォーラムが、二〇一〇年十二月十二日に函館大学において開催されました。

主催はあおもり県民政策ネットワーク※。弘前大学大学院地域社会研究科の他、北海道渡島総合振興局と青森県が後援しました。東北新幹線全線開業を機に道南と青森県との連携を深めるため、初めて開催しました。

フォーラムでは北里大学獣医学部循環型畜産研究会・嶋栄吉教授と小野泰さん、津軽地域づくり研究会・中澤侃志さん、そして弘前大学大学院地域社会研究科・佐々木純一郎教授が報告しました。

報告後の総合討論では地元の大野農業高校教諭をはじめ、活発な意見交換が行われ今後の青函圏の交流強化に強い期待が寄せられました。

※あおもり県民政策ネットワーク

<http://aomori-ppnet.jp/>

自治体職員と弘大教員中心の 津軽地域づくり研究会

「津軽地域づくり研究会」は自治体職員と弘前大学教員が中心となり、「地域の課題について調査・研究を行って、津軽地域の活性化につなげることを目的に二〇〇八年設立した研究会です。

二〇一〇年度の調査・研究のテーマは昨年度に続き「稲わら焼きゼロ」として、聞き取り調査を中心とした活動を行っています。青森県南部地域の畜産農家に対する聞き取り調査を始めとし、市町村の稲わら活用相談窓口や収集運搬組織、県JAにも聞き取りを行っている他、稲わら焼きの現場で農家に直接話を伺う活動も行っています。

こうした研究活動は全て公務や業務としてではなく、休日や終業後を利用して行われています。自主的な研究であるために、会員それぞれが抱える仕事の枠を越えた経験と出会いができる場と なっているのがこの研究会の特徴です。昨年度提言した「稲わら活用システム構築」を補強し、今年の三月には研究内容をまとめ、より実践的な内容を関係者に提言しました。



弘前大学地域社会研究会

街なか研究報告発表会

in 上土手スクエア

二〇一〇年度の第四回地域社会研究会は、地域に広く研究を知ってもらい、さらに多くの意見を頂くために、弘前市の街なかにある上土手スクエア※でおこないました。この街なか研究報告発表会は毎年一度開催しています。

発表は、弘前大学大学院地域社会研究科（博士課程）の四期生、六期生、八期生が一名ずつ行い、その内容は道徳性に関する研究、江戸時代の防災に関する研究、日本のサイン（標識）に関する研究でした。地域社会の広さ、そして多様さが現れた発表会であり、かつ研究科の独自性を一人一人が示した時間でもありました。一度皆様に発表会に来ていただき、一緒に地域社会について意見の交換ができれば幸いです。

※上土手スクエア

<http://www.toohan.co.jp/square/>

・入試案内・

弘前大学大学院地域社会研究科の入学試験については、左記までお問い合わせ下さい。

弘前大学学務部入試課

〇一七二一三九一三九七三

三一一九三